

令和2年度 学校自己評価表 (中間評価)

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

教育目標	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。	重点 目 標	1 心身ともにすこやかな生徒の育成	重点 目 標	1 心身ともにすこやかな生徒の育成
	2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。		2 夢や希望をかなえられる学校づくり		2 夢や希望をかなえられる学校づくり
	3 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、さらに心身ともに健全な態度を養う。		3 地域・地元を愛され、信頼される学校づくり		3 地域・地元を愛され、信頼される学校づくり
	4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。		4 専門教育の推進		4 専門教育の推進

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 心身ともにすこやかな生徒の育成	基本的な生活習慣の確立とマナーの徹底【生活部】	・昨年度、『遅刻』と『身だしなみ』については、意識を高くもって取り組み、概ね達成できたと思うが、『あいさつ』については十分できていない。	・『あいさつ』の大切さを理解し、授業の前後や校舎内での様々な場所で、教職員、生徒同士、来校者に対し、明るく気持ちのよい、心のもったあいさつができる。 ・家庭や地域、様々な場所や場面でも、心のもったあいさつができる。	・SHRや集会であいさつ大切さを伝える。 ・生徒会執行部と連携して、生徒が主体となった『あいさつ運動』に取り組む。 ・科と連携して、『あいさつ運動』に取り組む。(現在、ビジネス科が週2回実施) ・部活動との連携。 ・まずは、教職員から実践する。	・生徒部、各学年・学科から全校集会、学年集会・科集会の場面で、あいさつ大切さを伝えてきた。 ・ビジネス科生徒によるあいさつ運動の取組もあり、全体的にはあいさつができています。相手からの挨拶には応えるが、自発的なあいさつや授業開始前のあいさつが不十分などところがある。 ・学校祭前倒し等の状況もあり、生徒部と生徒会執行部の連携が図れておらず、生徒が主体となる『あいさつ運動』が提起できていない。	B	・細かなことも見逃さず、できることからしっかりと徹底させる。 ・「部活動あいさつキャンペーン(案)」等の新たな企画を計画し、さわやかで気持ちのよいあいさつが交わされる学校づくりに取り組む。 ・教職員が積極的に生徒とのあいさつやコミュニケーションに心がけ、顔を合わせれば自然と言葉が交わされる雰囲気を作っていく。 ・授業でのあいさつを徹底し、きちんとすることを習慣化する。
	部活動・生徒会活動の奨励【生徒部】	・4月末時点で部活動加入率は、1年95.6% 2年96.5% 3年90.1%。未加入者のうち2割は生徒会執行部に所属。課外活動を行っていない生徒は、全体の4.6%という状況。 ・新型コロナウイルスの影響で、各種大会の中止・練習制限等の状況があり、とりわけ3年生のモチベーションの低下が懸念される。	・生徒自らが、主体的に生徒会活動や部活動にかかわっている。	・コロナ禍を踏まえて、新しいスタイルの学校行事を企画・運営することで、生徒の自主性・創造性を育む。 ・未加入者の部活動への加入促進を図るとともに、練習計画・部室管理等を通して自主自立の精神を涵養する。	・学校祭実行委員会に多くの生徒が参加し、コロナ禍を踏まえた日程や内容を考え運営した。 ・新型コロナウイルス感染症対策(全校放送やWeb配信)を講じた学校祭・生徒総会に取り組んだ。 ・多くの生徒が積極的に部活動に取り組んでおり、9月末時点での部活動加入率は、1年生97.8%、2年生96.5%である。 ・2年生12人が生徒会執行部員となり、積極的に生徒会活動に取り組んでいる。	B	・生徒会執行部を中心に、思い出に残る体育祭や卒業式を企画する。 ・2年生が学校生活の中心となる自覚を促す。 ・学校行事や部活動において、お互いの成果や努力を評価する雰囲気を作っていく。よい成績や頑張った生徒はみんなに讃えられ、やりがいを感じられる雰囲気の中で、個々の自主的な活動の質を向上させていく。
2 夢や希望をかなえられる学校づくり	進路指導の充実【進路部】	・具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力が十分身につけていない。 ・就職希望者支援体制についてはできていないが、進学指導に関しては、個別指導による部分が多い。特に4年制大学への進学指導については大学固有の入試制度の研究など支援体制の整備が必要である。	・計画的に進路行事を実施し、キャリア教育が充実している。 ・学習指導委員会による進学支援体制が確立している。 ・年度内就職内定率100%となっている。	・進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施、職業観・勤労観の育成に努める。 ・大学入試に関する情報収集を行い、入試改革に対応した指導を、学習指導委員会で提案していく。 ・進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。 ・12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。 ・新型コロナウイルス感染症に対応するため、職場見学、オープンキャンパス、試験に向け、ICTを活用していく。 ・定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部を中心に県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を収集し、共有する。	・1・2年生の進路講演会を行い進路意識を持たせることができた。 ・講師が来校できないためリモート形式で対応した。 ・入試改革による小論文対策のための職員研修を行った。 ・外部模試の結果を資料として進路部と学年団・各科で学力分析を行った。 ・就職試験日程が1か月遅くなり、就職に向かう準備が学校祭と重なったが、3学年と進路部が連携し準備を進めた。 ・新型コロナウイルス感染症に対応するため、Webによる応募前見学会やオープンキャンパスに参加させ試験に備えた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で企業訪問を例年より控えたが電話やWebを使い積極的に企業や学校の情報収集に努めた。	B	・入試研究会等に参加し、最新の情報を得るとともに教職員に情報提供する。 ・分析結果を生徒面談で伝え、家庭学習の重要性を認識させる。 ・就職・進学試験に向けて、個人添削や面接指導などを行う。
	将来のスペシャリストの育成(資格・検定の取得やインターンシップ)【進路部】	・進路部で資格・検定を推進している。各科目で目標としている資格・検定に挑戦している。 ・多くの生徒がインターンシップ・デュアルシステムをとおして正しい職業観を養っている。	・資格取得に意欲的に取り組んでいる。 ・低学年からの進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムの充実により、勤労観・職業観が育成されている。	・資格取得・上級資格取得のための計画的で充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。 ・多様な進路選択を可能にするためにも資格取得にチャレンジするように促す。 ・インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実する。	・新型コロナウイルス感染症の影響で、前期に予定の技能検定、電気工事士資格試験が中止となり、就職に向かう3年生にとっては大きなダメージとなった。 ・機械科の製図検定、基礎製図検定は計画的に補習を実施し、合格率の向上が見られた。 ・前期のインターンシップ・ビジネス実習は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となった。	B	・技能検定(後期・旋盤・機械検査)、電気工事士資格取得に向けて補習を計画的に行う。 ・インターンシップ・ビジネス実習を12月に実施するため、10月から各事業所を訪問し依頼する。
	進路に対応できる学力の定着【教務部】	・基本的な学習規律は身につけているが、生徒の基礎学力や学習意欲の差が大きく、学習習慣が身につけていない生徒が多い。 ・授業時間数の偏りが生じている。 ・出張等による自習時間は減ってきてはいるが、まだ少ないとは言えない。 ・進路に応じた選択科目の履修ができるようになっているが、まだ十分とは言えない。	・学習習慣が定着し、基礎学力の向上が図られている。 ・生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上となっている。 ・授業時間数が確保され、自習時間が削減されている。 ・進路に応じた選択科目が適切に履修されている。	・基礎力診断テストの学習状況調査を活用し、家庭学習の充実を図る。 ・各教科で課題の出し方を工夫し、学校全体として家庭学習を促進し、習慣化するように取り組む。 ・朝テスト(2・3年)を実施し、進路に応じた基礎学力の定着を図る。 ・時間割の入れ替えや授業の売り買いを積極的にを行い、授業が自習時間とならないように取り組む。	・基礎力診断テストの分析会を行い、学習状況調査を活用することで家庭学習の意識づけになった。 ・考査前など目的に向かった学習のできる生徒は多いが、家庭学習が習慣化している生徒は依然として少ない。 ・3年生は計画通り4月から7月に朝テストを実施した。 ・休校により授業日数が減少したが、1学期中間考査の中止、強歩等の行事の中止や規模縮小により授業時間数は確保できている。 ・また、授業の入れ替えを積極的にを行い、自習時間は削減できている。	B	・進路決定後も卒業後の学びにつながる取組を促す。 ・10月の基礎力診断テストとの比較検討を行い、家庭学習の習慣化に向けた対策を検討する。 ・授業の入れ替え等を継続し、自習時間の削減・授業時間確保に努める。
	思考力・判断力の向上【教務部】	・生徒は落ち着いてはいるが、反面、主体的に学習に取り組んだり、自ら考え判断し、自発的に行動したりすることができる生徒が少ない。	・思考力や判断力の育成のために、課題探究的な学習や対話的な学習活動が実践されている。 ・達成感や自己肯定感を持った生徒が多くなる。	・授業公開や授業互見、教職員研修会をとおして学び合いを促進し、授業改革を行う。 ・新学習指導要領に対応した新教育課程の検討をはじめめる。 ・学校生活の中で、生徒が活躍できる機会を増やす。	・公開授業は12人中6人実施したが、参観者が少ない。 ・新学習指導要領に対応した新教育課程の検討を各教科に依頼した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で多くの行事(校外とも)が縮小・中止となり、生徒が活躍できる機会が十分に確保できていない。	B	・公開授業を予告し、積極的な参加を促す。(年間に自教科と他教科1つ、計2授業を参観する。授業実践者は他教科1つを参観する) ・新教育課程について、11月教科主任会に提案し、今年度中には原案を作成する。 ・感染症対策に配慮しつつ日程等を見直し、生徒の活躍できる機会を確保する。
3 地域・地元を愛され、信頼される学校づくり	地域とともにある学校づくり(学校運営協議会)【管理職】	・これまでも、各学科を中心に学校と地域につながる事業が行われている。 ・学校運営協議会は、委員を選出し、今年度から開始することとしている。	・学校運営協議会の仕組みを生かして、地域とともにある学校づくりが進められている。	・目標を共有し、課題の解決を図ったり、教育活動充実のための方策を検討する。	・6月23日(火)に第1回学校運営協議会を開催した。会長及び副会長を選出し、令和2年度学校教育方針の承認を得た。 ・コロナ禍において、取組の参観を控えていただくなど、十分な連携を取ることができていない。	B	・学校案内、倉総だより、学校ホームページの抜粋、地域と関わりのある取組などの資料を委員に配付し、評価・助言を受ける。
	地域への情報発信(積極的な広報活動)【総務部】	・ホームページの記事更新が頻繁に行われ、各科の学習活動や部活動の大会の状況が発信されていた。 ・ビジネス科が作成した学校カレンダーを、学校外の企業や中学校等に配り、情報発信に努めているが、十分な部数がなく、全ての関係団体に配れていない。	・学校行事、部活動の大会成績などの記事がホームページに随時掲載されており、本校の活動の様子が地域に知れ渡っている。	・ビジネス科が作成する学校カレンダーの部数を増やし、他団体に対しても配れるようにする。 ・学校行事については、積極的に総務部から各担当にホームページへの掲載を依頼したり、ライブ配信によって生徒の生の様子を発信する。また、新聞社やテレビ局などマスコミにも適宜情報提供する。	・学校カレンダーは当初670部作製したが、不足により追加した。 ・学校案内のページ数を6ページから16ページに増やしたことは、中学校説明会や中学生体験入学が中止される中学校の情報提供としてよかった。 ・学校行事が中止や規模縮小され、ホームページへの掲載も少なかった。 ・学校祭はInstagramによるライブ配信を実施した。	B	・今後開催される学校行事について、ホームページへの掲載を総務部が積極的に依頼する。また、ライブ配信を活用した発信も行う。 ・学校行事等の情報提供をマスコミ等へ積極的にを行う。

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果			
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
3 地域・地元 に愛され、信 頼される学校 づくり	地域・産業界との交流 【各学科】	M	・企業名は知っているが、その企業の業務内容などについては知らない生徒が多い。 ・企業見学やインターンシップなどを実施するが、十分な理解には至っていない。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等と おとして、自分の希望に関係する企業について 業務内容などを理解している。 ・就職に向けて意識が変化し、資格取得の意義 などについて理解している。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等 で産業界での取組や意識を知る機会を設ける。	・3年生の進路意識高揚をわらいとし、企業見学と先輩を講師にした講演会を実施した。ともに6月に実施し、進路決定の参考にする ことができた。	B	1・2年生企業見学を3学期、2年生インターンシップを12月に 実施する予定である。
		E	・鳥取県電業協会中部支部との共同作業で、倉 吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、地 域に貢献した。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動を地元 民生委員の方と電業協会中部支部とで連携を し、地域に貢献した。	・イルミネーションの取り付けなど、地域産業と の交流が図られている。 ・地域の家庭に出向き、奉仕活動を行うことで 地域住民との交流が図られている。	・鳥取県電業協会中部支部との意見交換会 でイルミネーション設置について、アイデアの提案等 を行う。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動前後で 民生委員、電業協会、教職員・生徒との意見交 換を行い連携をとる。	・意見交換会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 ・「電気をとおして福祉を考える」は、9月8日に小鴨地区で住民説 明会を実施した。	B	・イルミネーションの設置を10月17日に予定、その後点灯式 を12月に実施する予定である。 ・「電気をとおして福祉を考える」は、12月4日に実施する予定 である。
		C	・くらそうサロンでは、町内放送などで参加者 を募り、参加される高齢者が増加した。 ・くらそうやは「食のみやこ」「上北菜まつり」に 参加し、地域との交流を行った。	・「チャレンジショップくらそうや」「くらそうサロ ン」「くらそうビジネスセミナー」をとおして、地域との 連携が深められている。	・「チャレンジショップくらそうや」「くらそうサロ ン」「くらそうビジネスセミナー」をとおして、新型コ ロナウイルス感染症の感染予防に配慮しながら、 学習内容の充実にも努める。	・新型コロナウイルス感染症の影響で例年のような活動ができてい ないが、連携業者を支援するために生徒の発案による校内販売を 実施した。 ・「ビジネスセミナー」は、中学生体験入学での指導はできなかつ た。	B	・「くらそうや」は回数を減らして実施する。白壁土蔵群での店 舗と今年度新たに大型商業施設でも出店する予定である。 ・「くらそうサロン」は11月下旬から12月上旬に2回実施する。
		D	・小学校や福祉施設と交流を行っている。交流 を意図的に行おうとはしているが、参加してく ださる方にとり楽しんで参加してもらうかを考えて 計画するまでには至っていない。	・交流する相手方のことを考えて計画を立てら れるようになる。 ・異年齢の方々と交流することによりコミュニ ケーション能力が高まっている。	・福祉施設の方や社会人講師の方々の意見 を伺いながら、交流の計画を行う。 ・学習した知識や技術をいかし、生徒が主体的 に行動できるように指導する	・新型コロナウイルス感染症の影響で例年より交流の回数が減少 している。 ・実施した交流ではソーシャルディスタンスに配慮し、意図的に交 流することができた。	B	新規交流先の開拓も含め、新しい交流の在り方を模索する。
	グローバルな人材の育成 (世界規模で考え、地域で行動する人材) 【各学科】	M	・日頃の学習内容は理解できているが、それが 企業活動にどのように反映されているかまで理 解がつかない生徒が多い。 ・地元企業で製造された部品が、どの製品に組 み込まれどのように市場に出回っているか知ら ない。	・学習内容が地元で製造した製品を媒体として 世界(社会)につながっていることを理解し、学 ぶことの意識が高まっている。	・先輩たちが就職している企業がどの製品の部 品を製造しているかが分かるような資料を作成 する。	・資料作成に向けて準備している。	-	・12月末までにデータを集約し、1月末までに完成させ、1・2年 生の意識づけに活用したい。
		E	・インターンシップや長期インターンシップをとお して、就業意識を高め、基本的な技術を身につ けることができた。	・インターンシップを通じて、就業意識が高まり キャリア教育の充実が図られている。	・事前の安全教育をすることで就業を意識する。 ・インターンシップ最終日は各企業が学校に集 まり、生徒に対して一斉の研修を行う。	・長期インターンシップは、新型コロナウイルス感染症の影響で中 止。	-	・インターンシップを12月に実施する予定である。
		C	・ビジネス実習、インターンシップ、課題研究を とおして実社会にかかわり地域の現状を肌で感 じることができた。	・進路意識の向上とインターンシップ・デュアル システムの充実により勤労観・職業観が育成さ れている。	・地元企業の見学、社会人講師を導入する。 ・インターンシップ・ビジネス実習先の企業や事 業所の新規開拓をする。 ・インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指 導を徹底・充実させる。	・社会人講師については2学期以降に実施予定である。 ・受入を控える事業所が例年より多いなか、新規受入事業所を3社 開拓できた。	B	・新型コロナウイルス感染症拡大の状況を注視し、社会人講師 を県内在住の方に依頼する。 ・受入人数によっては、ビジネス実習のみを実施する。
		D	・自分たちの学習したことがどう地域の産業に なっているのか理解できていない生徒が多 い。	・地域の産業について理解でき、自分たちが学 習したことの成果などを地域に発信することが できる。	・「企業見学」や「先輩に学ぶ」を実施する。 ・企業等と協同し、「商品開発」を行う。	・企業見学は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。 ・企業との商品開発は、課題研究で取り組んでいる。	B	・商品開発を企業の協力・指導助言を得て進め、中部ハイス クールフォーラムで発信する。
		M	・学校生活を含めて受け身(指示待ち)のスタ ンスをとる生徒が多く、多くの可能性を潰して いるように思う。資格取得においても「合格でき なかつたら損」など、物事にマイナスの見方をする 生徒が多い。	・積極的に資格取得に取り組み、合格に向けて 努力できている。	・難易度を問わず多くの資格を取得する中で達 成感と自己肯定感を感じさせ、自己を高めるた めのチャレンジ精神を養う。	今年度はCADに関する資格に初めて挑戦した。準備段階から学習 に意欲的に取り組んだ。	A	技能検定(機械検査)受験者を積極的に募集する。
		E	・鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会 議を2回開催し、各事業を連携して取り組んで いる。また、同協会に高校生ものづくりコンテ ストの指導を受け、中国大会出場権を獲得した。	・高校生のものづくりコンテストにおいて上位に 入賞している。	・鳥取県電業協会中部支部の指導を受け、技術 の向上を図る。	・12月の県大会に向けて目下練習中である。 ・中国大会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。	-	・県大会へ向けて、鳥取県電業協会中部支部の技術指導を2 回程度受ける予定である。
4 専門教育 の推進	学科の枠を超えた取組の実践 (総合選択制) 【各学科】	C	・資格取得に各学年とも積極的に取り組んで いる。 ・計画的に課外授業を行うことができた。 ・社会人講師を活用することで、より専門的な 学習に取り組めた。	・上位級資格取得を目標に積極的に取り組んで いる。 ・資格取得を通して、チャレンジ精神を養って いる。	・長期休業中や放課後に課外授業を実施する。 ・資格取得に取り組む重要性を生徒に理解さ せるよう努める。	・夏季休業中に課外授業を実施した。 ・資格取得の有用性を伝えたと、各種資格に挑戦する生徒が 増加した。	B	各種検定に対応して、放課後に課外授業を実施する。
		D	・意欲に個人差があり、取組状況がさまざま である。	・意欲的に取り組むことができ、学習したこと を検定取得やコンテストへの参加に挑戦する ことができる。	・検定合格、コンテスト等への参加を促す。	・検定合格に向けて、意欲的に取り組んでいるが、コンテストへの 参加はできていない。	B	・後期の検定合格に向けて補習等の指導を行う。
		M	・総合選択制を活用し他学科の科目を積極的 に履修するよう働きかけができています。(A選 択・電気基礎・アプリケーション演習)	・将来を見据えた適切な科目選択ができて いる。	・選択科目説明において、自科のカリキュラム では学べない内容を総合選択制を活用し習得 するよう指導する。	10月に選択科目説明会を実施する予定である。	-	進路決定時にプラスな選択となるよう、他科が開講している電 気基礎、アプリケーション演習などについて説明する。
		E	・課題研究「くらそうや」の期間中に「おも ちゃの病院」を実施している。また、スイッチ を使ったストラップ「スイッチくん」という商品 を提供している。	・くらそうやに電気科として「おもちゃの病 院」及び「商品提供」ができています。	・課題研究「テクニカルボランティア」を とおして「おもちゃの病院」を行う。 ・電気工学部と連携して「商品提供」を行う。	・おもちゃの病院は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止と なった。	-	・くらそうやへの商品提供(銅線を活用した金細工)の準備を行 う。
		C	・課題研究「くらそうや」をとおして、学 科間連携が進んだ。 電気科:「おもちゃの病院」 生活デザイン科:作品、商品提供	・課題研究をとおして全学科で連携を進め ている。	・「くらそうや」において他学科の生徒の 販売実習を検討する。	学校祭でのくらそうやの販売において、機械科が制作した商品 (レーザー加工機で作成したコースター)を販売した。	B	今年度はくらそうやの出店機会が減少することが予想される が、他学科の商品が揃って販売できるよう依頼する。
D	・くらそうやへ商品を提供しているが、顧 客のニーズにあった商品が作られていない 実態がある。	・商品を開発し、くらそうやで生活デザ イン科の生徒が販売をしている。	・ビジネス科と連携し、ニーズ調査など を行う。	・新型コロナウイルスの影響でニーズ調査は できていない。 ・くらそうやへの商品提供の準備をしている。	B	・くらそうやへの商品提供(かご、羊毛フェルトマスコット、コ ースターなどの小物)を行う。		
5 業務改善 の取組	長時間の時間外勤務者の解消 【管理職】	・教員等の平成29年度比時間外業務は15.7%削減 (42.0時間→35.4時間)であった。 ・月時間外業務100時間以上は7人(昨年10人)で14 回(昨年27回)であった。産業医との面接指導を全 員に対して実施した。 ・本校では部活動指導・大会引率が時間外業務の 多くを占めている。	・月当たりの時間外業務が、平成29年度比で 25%削減できている。 ・部活動時間が、平日3時間程度、休業日4時間 程度で行われている。 ・部活動休養日が、週休日を含め週当り1日 以上設定されている。	・週日振替、勤務の割振の徹底、年休、夏季 休暇等の取得を推奨する。 ・業務に偏りが生じないよう、分散化を図るなど 組織的に取り組む。 ・毎月の部活動計画の提出を徹底し、点検・指 導する。	・月当たりの時間外業務が、平成29年度比で目標である25%以上 削減できている。 ・毎月、全ての部において部活動計画が立てられている。部活動時 間は、平日3時間程度、休業日4時間程度が遵守されている。 ・部活動休養日は、原則週休日のいずれかが休養日となっている。 大会等で週休日に活動があった場合は、直近の平日が部活動休 養日に設定され、ガイドラインが遵守されている。 ・時間外業務時間の多い教職員が若干名ある。	B	・週日振替、勤務の割振の徹底、年休等の取得を推奨す る。 ・毎月の部活動計画の提出を徹底し、点検・指導する。	

【学科名】 M：機械科 E：電気科 C：ビジネス科 D：生活デザイン科

A：十分達成【90%以上】 B：概ね達成【89～70%】 C：変化の兆し【69～50%】 D：まだ不十分【49～30%】 E：目標、方策の見直し【29%以下】